

手洗い運動が世界中で広がっています！

「JICA 健康と命のための手洗い運動 ニュースレター」は、JICA の様々な拠点、プロジェクト、協力分野における手洗い活動の取組みを共有し、手洗い運動の輪をさらに広げていくことをねらいにしています。本ニュースレターで紹介する活動を参考にして、皆さんも手洗い活動に取り組んでみませんか？ウェブサイトでは手洗い活動に使えるツールも紹介しています。

是非ご覧ください！

「[JICA 健康と命のための手洗い運動プラットフォーム](https://www.jica.go.jp/activities/issues/water/handwashing/index.html)」ウェブサイトはこちら
<https://www.jica.go.jp/activities/issues/water/handwashing/index.html>



By INOUE Kimidori

※今号の1枚、はお休みたいしますが、皆様からの手洗い写真を引き続き募集いたします！
 取り組み事例は、JICA 健康と命のための手洗い運動事務局 Handwashing@jica.go.jp へご連絡下さい。



人間開発部保健グループ プライマリヘルスケアにおける定期予防接種システム強化プロジェクト

予防接種現場で手洗いの大切さを伝えました！（パキスタン）

パキスタンでは COVID-19 の感染への不安から集団で行う予防接種接種率の低下が生じ、一部地域で麻疹の流行が深刻な課題となっています。「プライマリヘルスケアにおける定期予防接種システム強化プロジェクト」では、住民対象の定期予防接種に関する啓発活動と COVID-19 の感染予防に関する啓発活動、カウンターパート (C/P) である予防接種ワーカー等に対する感染予防研修を実施しています。

予防接種の安全性と感染症予防の重要性を伝えるチラシを、予防接種に来た住民に配布しています。特に手洗いについては、①遠隔地の住民が市販の石鹸を手に入れられない、②アルコール入りのハンドサニタイザーは使用できない（イスラム教でアルコール摂取が禁止されていることに関連）、等の困難もあるものの、出来る範囲で清潔を保つよう呼びかけています。また、予防接種ワーカーには感染防御研修を行い、予防接種前後の手洗い、消毒の徹底をはじめ、いかに予防接種の場における感染リスクを下げるかを教え、安全な定期予防接種の提供ができるよう支援しています。



プロジェクトで作成した COVID-19 啓発チラシ (手洗いに関するページ)



予防接種ワーカーに対してアウトリーチの予防接種活動開始前に感染予防に関する簡易オリエンテーションを実施



予防接種を受けに来た住民へ COVID-19 感染予防に関する啓発を実施



母子保健ワーカーに感染症予防（手洗い方法、マスク・手袋の着用、資機材の消毒）の研修を実施

(パキスタン「プライマリヘルスケアにおける定期予防接種システム強化プロジェクト」大村雪香)



10月15日「世界手洗いの日」 ケニアでの手洗い啓発

コロナ感染症の拡大を受けて、ケニア保健省はマスクの着用義務や手洗いの実践を奨励しています。水衛生灌漑省やケニア水道協会の先導で、各地の水道公社は供給水量の増加や公共の場所での手洗いタンクと石鹸の設置を進めました。感染症の影響で、石鹸を使って手洗いをする大切さがケニア市民の間に広まっています。

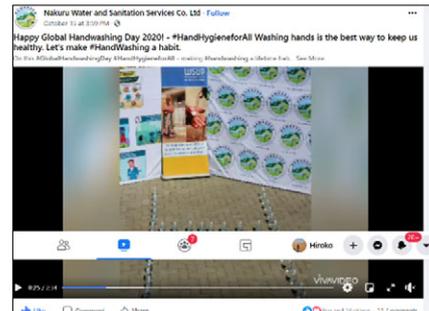
2020年10月15日の「世界手洗いの日」に向けて JICA「無収水削減能力強化プロジェクト」では、手洗い運動のロゴを入れたソーシャルメディア用のポスターを水衛生灌漑省と水道公社9社と協働の上作成し、各組織での活用を奨励しました。その結果、世界手洗いの日には水衛生灌漑省、キスム、ナクル、ニヤブルル、キリフィの水道公社が、Twitter やフェイスブックに手洗いに関するメッセージを掲載しました。

キスム水道公社は衛生啓発活動に力を入れており、世界手洗いの日に低所得地域の学校5校を訪問し、手洗い用の水タンクと石けんを寄付し、職員が正しい手洗いの方法についてのデモンストレーションも行いました。また、警察署やバス乗り場、市場などに水道公社が設置した簡易の手洗い施設の利用状況について聞き取り調査を行い、石鹸の補充などを行いました。サービス区域の住民に手洗いの重要性について啓発活動をする事は、コロナ感染症予防や衛生観念の向上のみならず、水道公社のイメージの向上にもつながっていると職員は感じています。更に水道公社は世界手洗いの日の SNS の訪問回数が普段より多かったことを報告しており、住民の給水サービスへの期待や手洗い・衛生への関心が高いことがうかがえました。

(ケニア「無収水削減能力向上プロジェクト」広報・情報管理担当 杉本寛子)



ナクル水道公社の手洗いポスター。スワヒリ語で「手を洗おう、コロナを止めよう」のメッセージ



ナクル水道公社用のフェイスブックで音楽入りビデオで手洗い方法を紹介



Kianja 小学校での啓発活動と手洗い施設の寄付の様子。両端がキスム水道公社職員。



Bodaboda と呼ばれるオートバイの待合所での手洗い施設の設置

11月19日は「世界トイレの日」 途上国でトイレ革命を進める！ トイレの大切さを改めて考えてみよう



モザンビークの学校でトイレの使い方を学ぶ女の子 (写真提供: 日本テクノ(株))

「世界トイレの日」はトイレに関する問題を世界中で考えていこうと国連が2013年に制定しました。世界中では、いまだ約20億人が基本的な衛生施設(トイレ)を使用することができません。そして、そのうち約6.7億人が野外で排せつを行っており、排せつ物から八工を媒介して病原菌が伝播し、感染症が拡大する要因にもなります。新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、今、「手洗い」の大切さが改めて注目されていますが、手洗い、安全な水の確保に並んで、トイレの整備は、感染症を防ぐだけでなく公衆衛生の向上には欠かせません。

JICAは、トイレの普及に向け、途上国で上下水道の整備から地域に適した環境配慮型トイレの導入、そして住民に対する衛生・環境意識の向上など、さまざまな取り組みを進めています。

詳細は JICA ウェブトピックス (https://www.jica.go.jp/topics/2020/20201119_01.html) をご覧ください。

本ニュースレターに掲載・共有したい記事・写真・情報等を随時募集しています！

- ①配信/配信停止の希望、②記事掲載の希望、③本メールマガジンの表示不具合などのほか、ご不明な点やご要望、ご感想がございましたら、下記の編集・配信担当支援スタッフまでご連絡ください。よろしくお願いいたします。



地球環境部 JICA 健康と命のための手洗い運動事務局
Handwashing@jica.go.jp

